

目標達成計画

作成日: 平成 23 年 10 月 30 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6(5)	身体拘束・虐待について社内研修で学んではいるが、玄関の施錠をしているままになっている。センター方式シートやひもときシートを活用して、本人の思い・願いをくみ取り、抑圧感のない生活を支援しなければいけない。またそれをご家族にも理解して頂く努力が足りていない。	センター方式によるカンファレンスを実施し、本人の行動にはどんな思い、状態があるのかをくみ取り、玄関に施錠のない生活になる。	カンファレンスを3ヶ月に1度実施し、施錠が必要か検討する。まずは施錠しない時間を作り、徐々に伸ばしていく。最終的には施錠しないようにする。同時に家族にも丁寧に説明し、コミュニケーションを図りながら、施錠に代わる安全管理の納得と理解を求めていく。	9ヶ月
2	20(8) 29 49 (18)	地域の方に少しずつあゆみのことを知ってもらいつつあるが、なじみのある関係には今だっていない。不意に立ち寄れるような間柄を目指したい。	今までの地域貢献活動を継続し、信頼関係を深める。新たな活動を提案し、地域に貢献していく。また利用者を地域にお連れする機会を増やし、交流を深める。	年4回の地域交流会の開催、資源ごみの仕分け、地域一斉清掃に加え、燃えないゴミ置き場の掃除、子ども見守り活動等に参加し、地域のボランティアさん、民生委員さんと交流し、あゆみのアピールをする。地域で開催される催し物の情報をいち早く察知し、利用者様をお連れする機会を増やす。また老人会にも利用者様をお連れし、触れ合う機会にする。	12ヶ月
3	52(19) 53 54 (20) 55	殺風景な居室が多く、馴染みの物に囲まれているという安心感が足りず、自分の部屋という認識もしにくい様子。共用部分も生活感に乏しく、利用者目線に立った空間づくりとはいえない。また独りになりたい時の空間がない。	センター方式によるカンファレンスを実施し、馴染みの空間、自分の居室と感ずることのできる空間を考え、工夫する。季節に応じたレイアウト、手作り作品を利用者(生活者)の目線に立って飾る。	センター方式のある前月に、各担当者がその方の居室について考え、馴染みの物、愛用品をご家族に尋ね、「自分の部屋」という空間を作る。またレクの担当になっている者を中心とし、季節感のある飾り付けにする。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。